

(2) 授業の見直しと質的改善を図るための手立て

これまでも、先生方は自身の日々の授業を振り返りながら教材研究を深め、生徒の実態に応じた手立てを取り入れられてきたことと思います。今回の学習指導要領の改訂は、学習の内容と方法の両方を重視して生徒の学びの過程を質的に高めていくことを目指しています。このことから、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るためには、単元など内容や時間のまとまりを見通した「課題解決的な学習」を進めていくことが大事だと考えます。『中学校学習指導要領解説社会科編』（平成 29 年 7 月）では、「『何を学ぶか』という学習内容と、『どのように学ぶか』という学習の過程を組み合わせることで授業を考えることは、その前提となる『何ができるようになるか』を明確にするとともに、授業改善の主要な視点として重要である」⁽¹⁾と示されています。

本研究では、授業の質的改善を図っていく上で、まずは、自分自身の授業を振り返ることから始め、図 1 のような「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善のプロセスをたどり、新学習指導要領で明確に打ち出された「課題解決的な学習」を進めていくことが大事だと考えます。

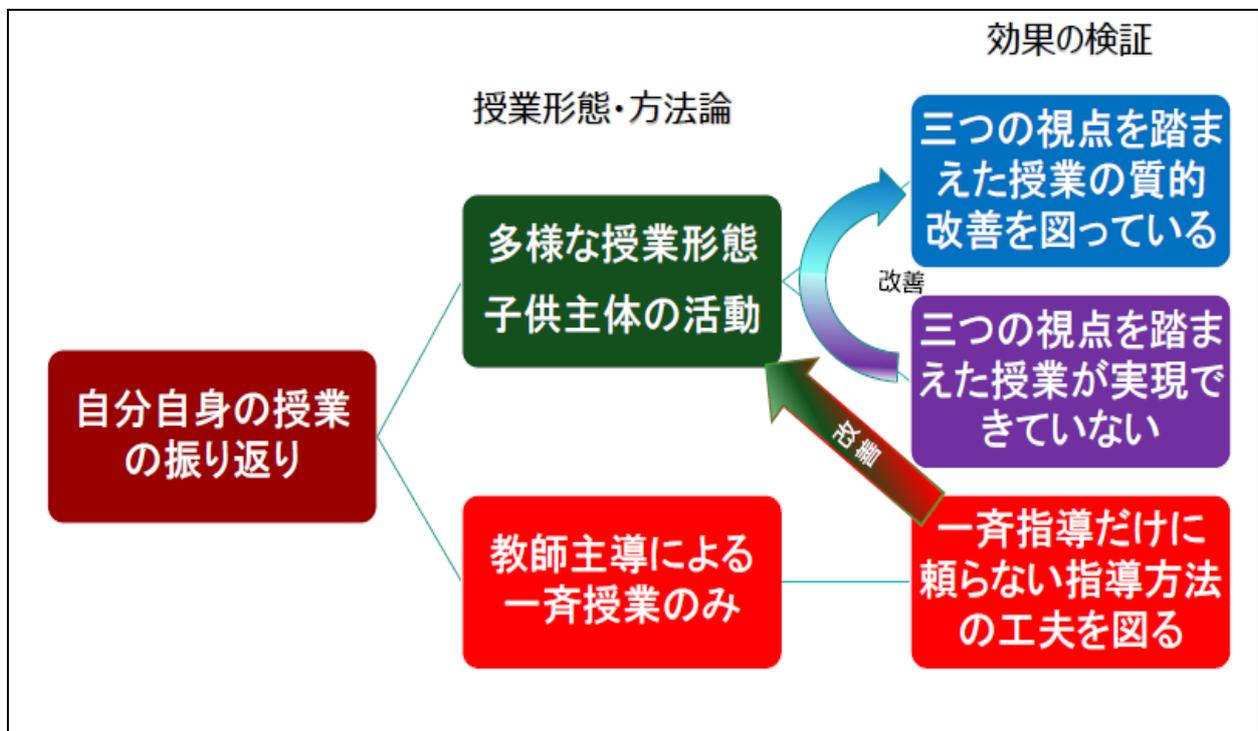


図 1 「主体的・対話的で深い学び」の三つの視点を踏まえた授業改善のプロセス

本研究委員会では、教師自身の日々の授業を振り返って「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業の質的改善を図る場合、図 2 のように考えて①～④の流れで進めていくことにしました。

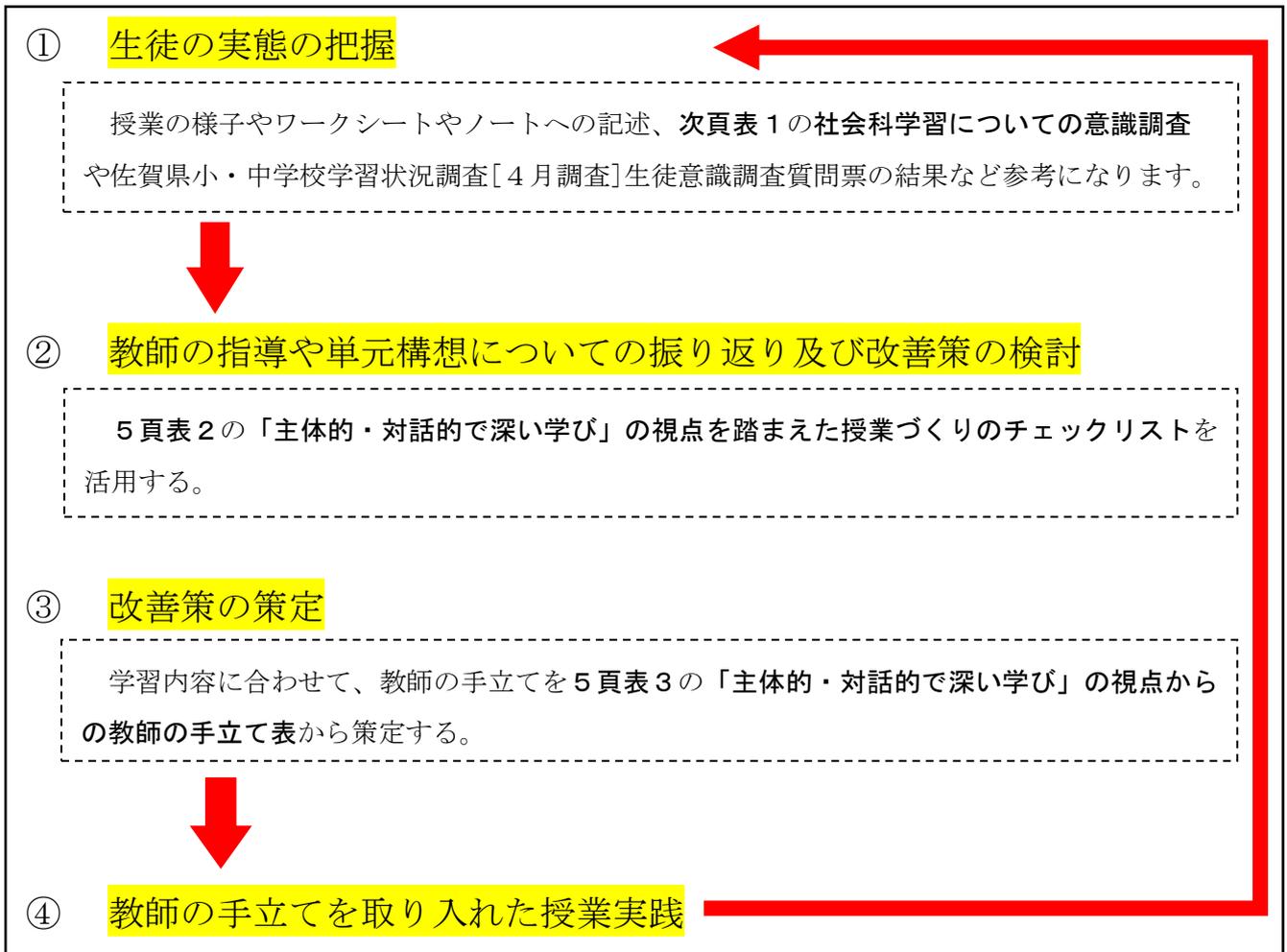


図 2 授業の質的改善の手順

まずは生徒の実態を把握する必要があります。日々の授業や生徒のワークシートの記述から生徒の実態を把握しましょう。次頁表 1 の社会科学習についての意識調査（以下、「意識調査」）や佐賀県小・中学校学習状況調査[4月調査]生徒意識調査の結果など、生徒の実態を知る上で参考になります。次に、生徒の実態を踏まえながら、本研究委員会が作成した 4 頁表 2 の「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリスト（以下、「チェックリスト」）で教師自身の授業を振り返ります。その後、4 頁表 2 の「チェックリスト」の項目のような教師の指導の実態を、本研究委員会が作成した 4 頁表 3 の「主体的・対話的で深い学び」の視点からの教師の手立て表（以下、「教師の手立て表」）と照らし合わせながら、授業の質的改善を図っていきます。

表 2 「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリスト

(A 4 版) [ここをクリック!](#)

課題把握	☑	手立て (A)	課題追究	☑	手立て (B)	課題解決 新たな課題	☑	手立て (C)
本時のめあてを設定している		A①	調べる時間を設定している		B①	まとめの時間を設定している		C①
単元全体を通した(貫く)学習課題を設定している		A②	調べたことを、ペアやグループで話し合わせる時間を設定している		B②③	学習課題について、ノートやワークシートなどにまとめることができるようにしている		C②③
生徒と共に単元全体を通した(貫く)学習課題を設定している		A③-1 A③-2	複数の資料を基に、多面的・多角的に調べて考えることができるようにしている		B④	学習を振り返らせる時間を設定している		C④
単元の見直しをもつことができるようにしている		A④	自分と他の生徒の考えを比較しながら、話し合うことができるようにしている		B⑤	結論について、他の生徒と話し合わせ、考えることができるようにしている		C⑤⑥
予想や仮説を立てることができるようにしている		A⑤	複数の立場や意見を踏まえ、解決に向けて選択・判断することができるようにしている		B⑥	次時や次の単元につながる新たな問い(課題)を見いだすことができるようにしている		C⑦

表 3 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの教師の手立て表

(A 4 版) [ここをクリック!](#)

	課題把握		課題追究		課題解決 新たな課題	
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
主な学習過程の例	<ul style="list-style-type: none"> ●学習課題を設定する ・社会的事象等を知る ・気付きや疑問を出し合う ・課題意識を醸成する ・学習課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ●課題解決の見直しをもつ ・予想や仮説を立てる ・学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ●予想や仮説の検証に向けて調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の生徒と情報を交換する 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する ・多面的・多角的に考察する ・話し合う(討論等) ●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する 	<ul style="list-style-type: none"> ●考察したことや構想したことをまとめる ・学習課題を振り返って結論をまとめる ・結論について、他の生徒と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習を振り返って考察する ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い(課題)を見いだしたり追究したりする
教師の手立ての例	<p>A① 既習事項や前時までのつながりを意識させて本時のめあてを設定する</p> <p>A② 資料や写真を提示して問いをもたせ、単元全体を通した(貫く)学習課題を設定する</p> <p>A③-1 テレビのニュースや新聞等を活用して身近な例を挙げ、問い返しをしながら学習課題を設定する</p> <p>A③-2 資料や動画を活用し、問い返しをしながら学習課題を設定する</p> <p>A④ 学習課題の解決に向けて、電子黒板やワークシート等を活用しながら見直しをもたせ、ゴールをイメージできるようにする</p> <p>A⑤ 学習課題について予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージできるようにする</p>	<p>B① 学習課題を確認し、個人で調べる場を設定する</p> <p>B② ペアやグループで協働して調べる場を設定する</p> <p>B③ 役割分担(司会、発表者等)を行い、話し合いの視点を与える</p> <p>B④ 個人で考える場を設定して、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるようにする</p> <p>B⑤ グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら話し合うことができるようにする</p> <p>B⑥ グループで、それぞれの考えとその根拠を交換し合う中で、解決に向けて選択・判断することができるようにする</p>	<p>C① 問い返しをしながら授業のまとめをする場を設定する</p> <p>C② ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示してまとめることができるようにする</p> <p>C③ 自分の考えの根拠となる資料を示し、ノートやワークシートにまとめることができるようにする</p> <p>C④ 学習課題を振り返らせる時間を設定し、学習内容を振り返ることができるようにする</p> <p>C⑤ 結論について、グループで話し合わせたことを基に、レポートなどにまとめることができるようにする</p> <p>C⑥ 問い返しをしながら、学習したことを自分たちの生活とつなげて考えることができるようにする</p> <p>C⑦ 自分の調べ方や学び方、結果を振り返る場を設定し、新聞記事や時事問題等を取り上げ、現代の社会問題につなげることができるようにする</p>			

【「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の質的改善の手順について】

「チェックリスト」(前頁表 2) と「教師の手立て表」(前頁表 3) の使い方について説明します。

まずは、生徒の実態を把握する必要があります。日々の授業や生徒のワークシートの記述から生徒の実態を把握しましょう。また、3頁表 1 の「意識調査」や佐賀県小・中学校学習状況調査〔4月調査〕中学校生徒意識調査の結果など参考になります。次に、確認した生徒の実態を踏まえて、自身の授業を振り返ります。「チェックリスト」の項目について、自身が既に実践しており生徒の姿からもその手立ての効果が見取れる場合は、その項目にチェック(✓)を入れます。チェック(✓)が付かなかった項目に、「教師の手立て表」に示した記号(A①など)の手立てを取り入れていきます。ただ、一度に全ての項目の質的改善を図ることは難しいと思われます。「教師の手立て表」は〔課題把握〕、〔課題追究〕、〔課題解決〕の3つに大別されているので、まずは〔課題把握〕の項目から授業改善を図ってはいかがでしょうか。また、〔課題把握〕の複数の項目にチェック(✓)が入らなかった場合は、生徒の実態を踏まえながら項目を絞って、以下のような手順で授業改善を図っていきましょう。

課題把握	手立て (A)	課題追究	手立て (B)	課題解決	手立て (C)	新たな課題
本時のめあてを設定している	✓ A①	調べる時間を確保している	B①	まとめの場を設定している	C①	
単元全体を通した(貫く)学習課題を設定している	A②	複数の資料を活用して調べている	B②	結論について、他の生徒と話し合っている	C②	
生徒と共に単元全体を通した(貫く)学習課題を設定している	A③-1 A③-2	自分と他の生徒と話し合っている	B③	結論について、グループで話し合っている	C③	
単元の見通しをもつことができるようにしている	A④	複数の立場や意見を踏まえ、解決に向けて選択している	B④	結論について、グループで話し合っている	C④	
予想や仮説を立てることができるようにしている	A⑤		B⑤	結論について、グループで話し合っている	C⑤	

(課題把握)の項目にチェック(✓)が1つしか付いていない。生徒も単元を貫く学習課題について意識できていない。まずは、左の2つの点線囲みの項目から始めてみようかな。



チェック(✓)が付いていない「単元を貫く学習課題を設定している」ことについては、「教師の手立て表」のA②を、「単元の見通しをもたせている」ことについては、「教師の手立て表」のA④を、それぞれ確認します。

課題把握	課題追究	課題解決	新たな課題
動機付け ●学習課題を設定する ●社会的現象等を知る ●気付きや疑問を出し合う ●課題意識を醸成する ●学習課題を設定する	情報収集 ●予想や仮説の検証に向けて調べる ●様々な種類の資料を活用して調べる ●他の生徒と情報を交換する	まとめ ●考察したことや構想したことをまとめる ●学習課題を振り返って結論をまとめる ●結論について、他の生徒と話し合う ●学習課題についてレポートなどにまとめる	振り返り ●学習を振り返って考察する ●自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ●学習成果を学校外の他者に伝える ●新たな問い(課題)を見いだしたり追究したりする
A① 既習事項や前時までのつながりを意識させて本時のめあてを設定する A② 資料や写真を提示して問いをもたせ、単元全体を通した(貫く)学習課題を設定する A③-1 テレビのニュースや新聞等を活用して身近な例を挙げ、問い返しをしながら学習課題を設定する A③-2 資料や動画を活用し、問い返しをしながら学習課題を設定する A④ 学習課題の解決に向けて、電子黒板やワークシート等を活用しながら見通しをもたせ、ゴールをイメージできるようにする A⑤ 学習課題について予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージできるようにする	B① 学習課題を確認し、個人で調べる場を設定する B② 個人で調べた内容を発表し、他の生徒と情報を交換する B③ 個人で調べた内容を発表し、他の生徒と情報を交換する B④ グループで、それぞれの考えとその根拠を交換し合う B⑤ グループで、それぞれの考えとその根拠を交換し合う	C① 問い返しをしながら授業のまとめをする場を設定する C② 結論について、他の生徒と話し合っている C③ 結論について、グループで話し合っている C④ 結論について、グループで話し合っている C⑤ 結論について、グループで話し合っている	●学習を振り返って考察する ●自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ●学習成果を学校外の他者に伝える ●新たな問い(課題)を見いだしたり追究したりする

「教師の手立て表」のA②の手立てを生徒の実態や単元に合わせて取り入れて授業改善を図っていきます。

「教師の手立て表」のA④の手立てを生徒の実態や単元に合わせて取り入れて授業改善を図っていきます。

〔課題追究〕、〔課題解決〕の項目についても、上記に示したような手順で、「チェックリスト」と「教師の手立て表」を照らし合わせながら教師の手立てを取り入れていきます。

前頁で示した手順を単元ごとに行っていき、単元が終わるごとに授業の様子やワークシートの記述から生徒の実態を見取っていくことが大事です。その後、教師自身の指導や単元構想について「チェックリスト」で振り返って、「教師の手立て表」から手立てを選択し、授業に取り入れていきます。

このサイクルを繰り返していくことで、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業の質的改善につながっていきます。



《引用文献》

- (1) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説社会科編』 平成 29 年 7 月 p. 170